

中学校及び高等学校の部

優良賞

「沖縄の魅力発信者に」

沖縄県立名護高等学校 3 年生 仲本 聖

沖縄は日本を代表する観光地だ。綺麗な海や空を初めとする豊かな自然、文化伝統・芸能、おいしい食べ物……。今年のゴールデンウィークもたくさんの観光客が沖縄を訪れていた。部活動でほとんど休みがなかった私は渋滞に遭いながら、なぜこんなに人々がおとずれるのだろうか？この人々はどれくらい満足しているのだろうか？そしてどうしたらもっと魅力ある観光地となりうるのだろうかということを考えてみた。

まず、沖縄の観光スポットとしてあげられるのが「美ら海水族館」「首里城」「おきなわワールド」「琉球村」「国際通り」などだろう。自分もほとんどの場所に行ったことがあるが、地元の人でも新たな感動あり、発見ありで楽しく見てまわれるところばかりだった。このような場所について「いつかは行こう」「いつでもいけるさ」と考えている人もいるようだが、私はできるだけ若い時に、または早い時期に楽しむことを勧める。それは自分が歩いていく中で出会う人々にいつか紹介するチャンスが必ずやってくると思うからだ。ただ知っていることを話すのではなく、味わったことを語るのである。うまいラーメン屋のことを紹介するためには味わわなくては説得力に欠けるといった具合だ。

この魅力ある観光スポットも景観を保つために企業ばかりでなく、行政も力を入れていることの一つがビーチクリーンだ。日本のビーチランキングトップ 10 の中に 8 つもの沖縄のビーチがランクインされている。もちろんこのようなビーチにゴミは散乱してはいない。それはゴミがないわけではなく、誰かの手によって拾われきれいにされているのだ。ほとんどの自然のビーチはそうでは

ない。これは私の住んでいる地域のビーチを見ているとわかるのだ。私に通っていた中学校では年に三回程海浜清掃を行っている。毎回トラック二台分のゴミが集められるがその内訳はペットボトルや空き缶・空き袋・洗剤の容器や釣り具等実に様々だ。そしてその大半が外国からの漂着ゴミでこれはどうやって防げるのかと考えさせられる。ゴミを絶対に落とさない、放置しないという市民レベルの活動や、地球規模での取り組みが必要だと考えられる。ビーチに限らず道路や公園等の公共施設も同じでゴミなしのきれいな環境が沖縄の青い空や海に劣ることのない魅力的な島「沖縄県」を創るものとする。そのような環境の中にこそ新たなイベントやサービスの提供が生まれ、観光地として世界中に名を轟かせ、発展していくのではないだろうか。

最後に、沖縄の魅力は目に見えるスポットだけではない。忘れてはならない大事なものがある。それは人々の内側・心・気持ちだ。特にそれを意識したわけではないが、私自身も日常の中で普通に自然に実践していることがある。私が住んでいるところは海にも近く、時々レンタカーの運転手や観光客に道を尋ねられることがある。そのような時、私は必ず立ち止りできるだけ笑顔で答えるようにしている。当たり前のことかもしれないが、これには以前他府県に行った時、道を聞きたくても急ぎ足の人々になかなか聞きづらかった経験もあったからかもしれない。とにかく、観光客だから特別でもなんでもなく、出会う人には親切にの昔から言われてきている「イチャリバチョウデー」の心だ。このような心に触れた人は「このご恩を忘れない、自分も親切になろう」という気持ちになり、「また沖縄に行きたい、友達にも紹介したい、いつか住みたい」とまで発展していくのではないか。

このように沖縄のよさを認識すること、よさを衰退させず維持・発展させるために環境保全をすること・他者を受け入れる広く温かな心を持つことが私なりに考えた結論だ。そして、私は近い将来、他府県に住んだり、他府県や外国の人々と交流することになるであろう。そのとき自身と誇りをもって沖縄の魅

力が発信できる人になりたい。